様式1 （第4条第1項関係）　　〔別紙様式3－1〕

26 京産大 学室 第1033号

平成 26 年 7 月 10 日

文部科学大臣 殿

大学等の設置者 （名　称） （所在地） （代表者氏名）	 学校法人 京都産業大学 京都市北区上賀茂本山 理事長 柿野 欽吾 （記名押印又は署名）
大学等名	京都産業大学

平成26年度 国際化拠点整備事業費補助金（スーパーグローバル大学等事業）交付申請書

国際化拠点整備事業費補助金交付要綱第4条第1項の規定により、次のとおり国際化拠点整備事業費補助金（スーパーグローバル大学等事業）の交付を申請します。

プログラム名称・選定年度	スーパーグローバル大学等事業 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（タイプB：特色型）		平成24年度
構 想 名 称	京都産業大学 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援		
国庫補助金交付申請額	88,560,000 円		
補助事業の目的・内容等	別紙のとおり		
補助事業の完了予定日	平成27年 3月31日		
事業推進担当者	氏名	所属・職名	
事業推進代表者			
事業推進責任者			
会計事務担当者名	所属・職名	連絡先（電話番号、FAX番号、E-mailアドレス）	
		TEL	
		FAX	
		E-mail	

様式1（第4条関係）

（別紙）

補助事業の目的・必要性

総論

本補助事業の目的は、「グローバル社会で活躍する理系産業人の育成」である。その人材像は、具体的に次の4つの要素からなる。第一に「チャレンジ精神と主体性を持つ若者」、第二に「専門領域に関する確かな知識を持つ若者」、第三に「確かな語学力と異文化受容力を持つ若者」、第四に「自らの存在と母国に自信と誇りを持つ若者」である。その人材像を達成するために、本取組では3つの柱からなる「理系産業人養成プログラム」を構築する。第一に「理系3学部と外国語学部の連携による異文化対話能力を育てるプログラム」、第二に「学内外の学びの融合によるチャレンジ精神を植えつけ、主体性を育てるプログラム」、第三に「確かな技術を持つローカル企業のグローバル化に貢献する志を育てるプログラム」である。

日本の企業行動を見ると、アジア諸国とのつながりが圧倒的に高まっている。本取組では、育成すべき人材像に掲げた「チャレンジ精神と主体性を持つ若者」を育てるために、アジア諸国を対象とした産学協働教育に着目し、その開発に当たっては同窓会組織との連携を一層進めていく。グローバル化した世界の中で、日本が揺るぎない地位を維持していくためには、一握りの指導者や企業人だけでなく、規模は小さくとも、確かな技術力を持った中小企業や幅広い民間レベルの国際交流が必要不可欠である。本取組は、本学の産学協働教育の蓄積を活かし、グローバル中堅層の拡充の必要性に応えることができる。

上記の目的を達成するための多様な教育プログラムを円滑に遂行していくためには、従来の教員と職員という二分法にとらわれない職域の開拓も重要な要素であり、本取組では、学士課程教育における教学体制を充実させるために、教育重点型教職員を育成することも視野に入れている。海外に目を向ければ、米国では、教員と職員の境界に位置する専門職が大学改革の推進力になっており、本取組は「日本型教育専門職」のパイロット・モデルとして位置付けることも可能である。

更に本取組は、理系産業人だけにとらわれず、人文、社会科学系へと展開させていくことで、多様な分野の産業人育成にも拡張できるプロジェクトであり、大学全体のグローバル化にも貢献する事業である。この意味においては、本事業は京都産業大学のグローバル化推進事業の「スタートアップ事業」であり、補助期間終了後は、大学の経常経費で本事業を継続していく予定である。

具体的な事業内容

(a)グローバル化推進プロジェクトチーム（親プロジェクトチーム）

① グローバル人材育成推進事業において、申請書に書かれた構想が迅速に実現されるように、以下の6つの下部プロジェクトチームごとの作業内容の承認及び作業進捗の把握等の総括を行う。

(b)グローバル・サイエンス・コース/イングリッシュ・キャリア・コース　プロジェクトチーム

② 平成25年度にシステム導入したポートフォリオを用いて、入学時から卒業時までの学習の成果物を保管できる環境を試行・整備する。グローバル・サイエンス・コーススタート時にはテスト運用を開始し、学生の学修成果の可視化を図る。

③ 大学の経常費用により、理系3学部と外国語学部の学生を優先的に対象とした1人15万円を上限とした渡航費奨学金を運用する。さらに各種奨学金制度の活用によって、留学費用の負担を軽減する。留学を促進するとともに、学部カリキュラムとの連動を図る。

④ 理系産業人の育成に関わる4学部の英語力到達目標達成にむけて、自発的に学習できる自学自習英語システムを昨年度に導入し、本年度から段階的に本格的な稼働を開始する。加えて、システムの利用環境の整備を、継続的に行う。

⑤ 同窓会組織等を活用し、台湾の拠点整備を進める。さらに、東アジア・東南アジア等海外拠点の調査を行い、協定校との連携の強化を図り、海外インターンシップの拡充を図る。

⑥ 理系企業を中心とした国内外ネットワークを構築する為、卒業生の就職先や確かな技術を持つグローカル企業について調査を行う。京都の経済界・同窓会組織を活用した理系インターンシップ科目を開講し、産学協働による理系専門知識の教育を行う。学生のキャリア形成を支援し、理系3学部のインターンシップ履修率の向上にむけた取組を行う。

⑦ 理系特別英語プログラム、グローバル・ジャパン・プログラム等、新規英語科目を開講する（25科目）。

⑧ 既存の理系学部専門英語科目（8科目）に加えて、理学部において専門英語科目（2科目）を新規に開講する。

⑨ グローバル・サイエンス・コースを対象とした短期・長期留学プログラムを追加で開発する。短期留学については、既存のプログラムに加えて、新規に東アジア・東南アジアへのプログラムについて検討する。長期留学については、学部専門科目履修と留学の両立のための環境を整備し、大学院進学予定者向けの教育など学部のニーズに合致した教育プログラムの開発・調査を行う。

⑩ 理系3学部と外国語学部の学生対象の夏期集中科目「特別英語（英語サマーキャンプ）」を新規に開講する。2回の試行の経験を踏まえて、外国語学部と理系3学部が連携し英語力向上と学生の意識向上を図るための施策を実施する。

⑪ グローバル・サイエンス・コースを対象として、キャリアパスを考察する動機付けを目的とする、産学協働教育を核にした海外留学プログラム、「海外サイエンスキャンプ」科目を新規に開講し、理系産業人の育成のための教育を米国西海岸で行う。

⑫ グローバル・サイエンス・コースのホームページ等の広報を展開し、本学の取組を外部に発信する。

⑬ グローバル・サイエンス・コースを対象として、国内外の講師を招聘し、英語学習やグローバルな理系キャリアに関するセミナーを開催する。春休み期間等を利用して、正課教育との両立を図るとともに、「海外サイエンスキャンプ」等の留学プログラムに参加できない学生にも、グローバルな体験を供給する機会とする。

⑭ グローバル・サイエンス・コースを対象として、月1回程度を目標に定例勉強会を実施し、コース登録者のコミュニティ形成と主体的な学びへの意識づけを図る。

(c)ラーニングコモンズ/グローバル・ビレッジ　プロジェクトチーム

⑮ 雄飛館ラーニングコモンズにおけるアクティブラーニング型授業を、平成25年度に引き続き、実施する。

⑯ 英語自学自習システムの導入に伴い、必要となるICTサポートの窓口について、電話対応も含む支援員を1名配置し、対応を開始する。

⑰ 雄飛館ラーニングコモンズにおいて、平成25年10月の仮オープンから試行している日本語/英語ライティングに関する学習支援サービスについて、学生のニーズが高いことから、より専門的知見から開館時間中に学習支援が担える学習支援スタッフ（2名）の雇用を開始する。

⑱ 平成25年度に完成予定であった新2号館の建設が、平成27年度に延期されたことに伴い、京都産業大学版グローバル・ビレッジに関するレイアウト設計及び什器選定等の具体的議論の実施を、平成27年10月の仮オープンに向けて行う。

⑲ 平成25年度に実施したラーニングコモンズセミナーと同様に、雄飛館ラーニングコモンズや図書館ホール(ラーニングコモンズ・パイロット版)においてアクティブラーニングセミナー（学内向け）を実施する。外国語学部と理系3学部が連携した本学の取組や、PBL型授業や双方向の授業スタイルの浸透を図る。

(d)教学グローバル化　プロジェクトチーム

⑳ 科目ナンバリングを全学的に導入し、体系的なカリキュラムであることを再検証し改善する。

㉑ これまでの履修登録のあり方を改善し、今後は、各学部教員が主体となる履修計画相談体制を導入する。

㉒ 英語科目の相互乗り入れについて学生に周知し、本学の語学力養成プログラムの最終目標である留学を促進する。

㉓ Webシラバスのシステムに、ナンバリングでの検索機能を追加する。あわせて、ナンバリングの一覧表をWebで公開する。

㉔ 事前・事後学習の内容や教員への質問方法も含めた「学習支援書」としてのシラバスを導入する。

㉕ ポートフォリオで蓄積した学生の学習成果の達成度や進捗を、担当教員による履修計画相談に活用する。

㉖ 英語による新規科目の導入と、その効果の検証を行う。

㉗ KSU科目群における建学の精神と日本文化の科目の履修を促し、建学の精神と日本文化の理解の促進を図る。

㉘ 履修計画相談に有用なルーブリックについて検討する。

㉙ 入学時にプレイスメントテスト（TOEIC Bridge）を実施し、全入学生に関するデータの蓄積、およびデータに基づいた教育改善を行う。

㉚ 第2セメスター終了時と第4セメスター終了時にTOEIC IP のテストを実施し、入学時のプレイスメントテスト（TOEIC Bridge）との比較により伸び率を確認する。また、授業の改善資料とする。

㉛ 履修要項・シラバス等の教学文書の英文化推進のポリシーが確定後、順次、英文化を進める。また、英語による授業科目のWebシラバス・システム検索機能については、先行して導入する。

(e)事務グローバル化　プロジェクトチーム

㉜ 学内文書を英文化するチームを編成し、学内文書の国際的通用性を向上させる。

㉝ 教育情報の段階的公開を検討する会合を開催し、大学ポートレートの状況を踏まえながら、公表基準への対応を行う。

㉞ 海外研修参加報告会を開催し、グローバル時代にふさわしい大学職員の企画・経営能力を高める。

㉟ グローバル水準に見合う大学職員の職能を開発し、職員の英語力向上やグローバル化に耐えうる人材のモデルを調査し、策定する。

㊱ 産学協働を担う専門職や、教学データの分析（IR）を行う専門職など、教員と職員の境界に属する「第三の職域」の人事評価・制度改善に関する調査を実施する。

(f)入学グローバル化　プロジェクトチーム

㊲ 3つのポリシーに基づいた入学時から卒業時までの一貫した修学支援システムを構築することを目的とし、本学のアドミッション・ポリシーと既存の入試制度等との一貫性について自己点検する。AO入試で各学部が定める「求める人材像」とアドミッション・ポリシーの一貫性に焦点をあて、その必要性・重要性を各学部教員間で共有・再認識するために意見交換を行う。また、アドミッション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが接続する入学前教育への見直しも視野に入れた検討を行う。

㊳ 大学と高等学校における英語教育等の授業実態・学生実態を教員間で共有するための一つの材料として、平成25年度に実施したTOEICスコアを分析・検証し、主に高校教員を対象に意見交換を行う。

(g)調査・研究　プロジェクトチーム

㊴ 学士課程教育の質保証をテーマにした公開セミナーを実施し、教職員の問題意識を喚起し、教育の質向上へつなげていく。年度末に報告書として全国の高等教育センター等へ配布する。質保証に関する研究蓄積を広く他大学へ公開することで、私立大学における高等教育センターのモデル形成を行う。

㊵ 「グローバル化時代に求められる大学職員の職能開発」に力点を置いた公開セミナーを実施し、大学職員の職能開発に関する研究蓄積を、広く他大学へ公開することで、私立大学における高等教育センターのモデル形成を行う。

㊶ 理系学生のためのPBL（Problem Based Learning）型授業の拡充を検討し、問題解決型の主体的な学びを促す為のFD活動を検討、実施する。

㊷ 外国語学部と理系3学部のTOEICスコアを分析し、本事業での数値目標の達成に向けた取組を行う。

㊸ GSC推奨科目の授業アンケートを分析し、それを教員も授業改善の指針として活用できる基礎資料とする。また、エンロールマネジメントのモデルとして、入学時から卒業後まで学生調査を継続的に実施する環境を段階的に整備していく。

㊹ 学生の問題解決型学習を促進する観点から、双方向授業を公開する教員に傾斜配点する制度を検討する。

㊺ 全国400 の大学・高等教育センター・研究所等へ配布している『高等教育フォーラム』で成果報告を行い、教育支援研究開発センターのホームページでも情報発信を行う。また、質保証に関するトピック別に、公開セミナーの内容をまとめたブックレットを作成し、質保証に関する研究蓄積を広く他大学へ公開することで、私立大学における高等教育センターのモデル形成を行う。

㊻ 第2回外部評価委員会を実施し、大学のグローバル化を、高等教育政策、英語・国際交流、教育工学、事務体制、情報公開の5つの視点から評価を受ける。

本年度の補助事業実施計画

(a)グローバル化推進プロジェクトチーム（親プロジェクトチーム）

① 4月～3月　グローバル人材育成推進事業の推進及び各プロジェクトチームの調整と総括のための会議の開催（月例）

(b)グローバル・サイエンス・コース/イングリッシュ・キャリア・コース　プロジェクトチーム

② 4 月～3 月　ポートフォリオの試行・試験的運用

③ 4 月～3 月　大学経常費による「渡航費奨学金」制度(2 年目)の活用による留学の促進

④ 4 月　　自学自習英語 (Eラーニング) システムの本格利用開始

⑤ 4 月～3 月　台湾をはじめ、東アジア・東南アジア等海外拠点の調査および協定校との調整（同窓会組織も活用）

⑥ 4 月～3 月　国内外ネットワーク（理系企業を中心）の構築、理系インターンシップの開拓・拡充・実施

⑦ 4 月　　理系特別英語プログラム（7科目）、グローバル・ジャパン・プログラム（11科目）、全学共通教育における英語新規科目（7科目）の開講

⑧ 4 月　　理系学部専門英語科目の開講・拡充

⑨ 4 月～3 月　グローバル・サイエンス・コースのための短期（東アジア・東南アジア）・長期留学プログラムの開発・調査

⑩ 9 月　　外国語学部と理系3学部生対象の夏期集中科目「特別英語　（英語サマーキャンプ）」の新規開講

⑪ 2 月～3 月　新規科目「海外サイエンスキャンプ」の開講・実施

⑫ 4 月～3 月　グローバル・サイエンス・コースのホームページ等における広報の実施

⑬ 3 月　　グローバル・サイエンス・コース春季セミナーの実施

⑭ 10 月～3 月　グローバル・サイエンス・コース定例勉強会の実施

(c)ラーニングコモンズ/グローバル・ビレッジ　プロジェクトチーム

⑮ 4 月～3 月　雄飛館ラーニングコモンズにおけるアクティブラーニング型授業の実施

⑯ 4 月　　（学習支援）英語自学自習システムのサポート体制の導入と試行開始

⑰ 4 月　　（学習支援）雄飛館ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞにおける日本語ライティング・英語ライティング支援の担当職員の雇用開始

⑱ 4 月～3 月　京都産業大学版ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ﾋﾞﾚｯｼﾞ新設計画の策定(レイアウト設計及び什器選定等の具体的議論の開始)

⑲ 3 月　雄飛館ラーニングコモンズ、図書館ホール（ラーニングコモンズ・パイロット版)におけるアクティブラーニングセミナー（学内向け）の実施

(d)教学グローバル化　プロジェクトチーム

⑳ 4 月～3 月　科目ナンバリングの導入と再検証

㉑ 4 月　履修登録のあり方の改善

㉒ 4 月～3 月　英語能力水準に基づく、開講所属の異なる英語科目の相互乗り入れの実施

㉓ 4 月　内容の関連性や難易度が分かるナンバリングの導入と、科目間のつながりを検索可能なシラバスシステムの導入

㉔ 4 月　「学習支援書」として参照可能なシラバスへの改訂

㉕ 4 月～3 月　ポートフォリオを活用した履修計画相談の実施

㉖ 4 月～3 月　英語による新規科目の導入とその効果の検証

㉗ 4 月～3 月　KSU科目群による建学の精神と日本文化の理解の促進

㉘ 4 月～3 月　履修計画相談に有用なルーブリックの調査

㉙ 4 月　入学生へのプレイスメントテスト（TOEIC Bridge）の実施

㉚ 1月　1年次生と2年次生へのTOEIC試験（TOEIC IP）の実施

㉛ 4 月～3 月　履修要項・シラバス英文化の促進

(e)事務グローバル化　プロジェクトチーム

㉜ 4 月～3 月　学内英文書の精査、学内文書英文化の推進

㉝ 4 月～3 月　教育情報の段階的公開の検討

㉞ 4 月～3 月　海外研修参加報告会の開催

㉟ 4 月～3 月　グローバル水準に見合う大学職員の職能の開発に向けた調査

㊱ 4 月～3 月　専門スタッフ、第三の職域に関する人事評価・制度改善に関する調査、検討

(f)入学グローバル化　プロジェクトチーム

㊲ 4 月～3 月　アドミッション・ポリシーに則した入試、入学前教育の改訂に向けた検討

㊳ 7 月～3 月　TOEICスコアを活用した大学・高等学校間での英語教育に関する意見・情報交換

(g)調査・研究　プロジェクトチーム

㊴ 9 月～12月　公開セミナー「グローバル人材育成高等教育セミナー（FD編）」の実施（1回）

㊵ 9 月～12月　公開セミナー「グローバル人材育成高等教育セミナー（SD編）」の実施（1回）

㊶ 5 月～3 月　理系学生のためのPBL型授業の拡充の検討

㊷ 4 月～3 月　外国語学部と理系3学部のTOEICスコアの分析の実施(教学IRにおける調査・分析体制の強化)

㊸ 10 月～3 月　GSC推奨科目の授業アンケートの分析(教学IRにおける教学レファレンス機能の強化)

㊹ 4 月～3 月　双方向授業等を公開する教員に傾斜配点する制度の導入検討

㊺ 3 月　『高等教育フォーラム』（第5号）の発行

㊻ 3 月　外部評価委員会の実施（第2回）